

台湾との都市提携を実現

みやもと
宮元 陸 ● 理事
加賀市長



昨年十月に石川県加賀市長に就任し、今年七月にかねてより希望をしていた台湾との正式な国際交流をようやく実現いたしました。

人口百八十八万の台南市とは友好都市協定、人口二百七十八万の高雄市とは観光交流協定、そして高雄市の中の行政区である人口十三万五千の鼓山区とは友好交流都市協定を締結することができました。

これは石川県の自治体としては初のことでありますし、日本の自治体としても、同時に三カ所の台湾の自治体との交流協定も初の試みだらうと思います。

思い返せば、私と台湾との関係は県議会時代に遡ることになります。

平成十四年当時、県議一年生だった私が歴史教科書採択の運動を進める過程で、李登輝・元

台湾總統の幻の三田祭講演録「日本人の精神」に触れて感動し、李總統そして台湾への関心が高まったことを今でも鮮明に思い出します。

その後、日本李登輝友の会に入会し、平成十六年の第一回台湾李登輝学校研修団に参加。李登輝先生に直接お目に掛ることができ、その思いはさらに強いものとなりました。

同年に「石川県議会日台友好議連有志の会」を結成し、翌十七年には「石川県議会日台友好議員連盟」を正式発足させ、十八年に当時の台南県議会との間で友好交流協定を締結するに至りました。これは日本の県議会と台湾の県議会との初の交流協定となり、注目を集めることとなりました。

また、平成二十年六月に石川県の小松空港と桃園空港との間にエバー航空が定期便を就航。

これも日台友好議連が主導し、森喜朗元総理のご尽力をいただきながら就航に至りました

このように石川県における公的な日台友好運動は、まさに私を始めとした県議会が主導してまいりました。もちろん、その背景には烏山頭ダムを建設した金沢市出身の八田與一技師の功績があり、それを民間団体が草の根運動として下支えしてきたの言うまでもありません。

八田技師という郷土の偉人を輩出しながら、台湾との正式交流が進まなかったのは、言うまでもなく中国の存在であります。石川県と台湾との交流に常に強く干渉してくるこの国の存在をして正式交流が阻害され、また卑屈なまでの政府および自治体の非礼な対応に問題があったわけです。

平成十七年当時、台南県の蘇煥智知事からの再三再四の姉妹都市交流の申し出に、石川県は答えませんでした。そのことを当時、私は県議会でも再三追及してきたにもかかわらず、放置されたまま今日に至っています。

今でも、当時のことを思い返しますと悔しき

が募り、日本人として誠に恥ずかしい思いでありました。李登輝先生が繰り返し指摘されている、日本人としての誇り、武士道を中心とした日本精神を忘れず胸を張れ、という言葉が常に脳裏をよぎっていました。

あれから十年近くが経過し、積年の思いを実現できるチャンスがようやく巡ってまいりました。加賀市長という首長としての立場をいただきましたので、台南市や高雄市との都市提携を実現することができました。

こよなく日本を愛し、慕ってくださる台湾の多くの人々に誠心誠意答えて行くことにより、日台の運命共同体としての絆はより強化されて行くものと確信しています。

私は、日台のさらなる友好交流の先頭を常に走る、そんな先導的な役割を担える自治体交流を目指しています。

また、我々とともに台湾との交流を目指す自治体を増やしていくことが、李登輝先生が言われる日本人としての誇りと自信の復活につながるものと確信しております。